



TITLE:

世界列強の鑛産資源と鑛業政策(一): 米國地質學者シー・ケー・レース博士[著]

AUTHOR(S):

[近][藤], 堅二

---

CITATION:

[近][藤], 堅二. 世界列強の鑛産資源と鑛業政策(一): 米國地質學者シー・ケー・レース博士[著]. 地球 1936, 26(2): 133-147

ISSUE DATE:

1936-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184585>

RIGHT:

# 世界列強の鑛産資源と鑛業政策 (一)

米國地質學者シー・ケー・レース博士著

近藤 堅 二 譯

は し が き

## 序言 (著者)

## 第一章 鑛物景觀に於ける新要素

生産の新規模 最大の鑛物資源に對する需要の集中  
國際間の相互依存 國際間に於ける鑛物の流通  
鑛物の通商的並に政治的統制の強化 開發作業

## 第二章 將來に於ける鑛産資源の地理

鑛床の潤渴による地理的變化 金屬鑛床の新發見  
技術的進歩に基づく地理的變化 代用品の使用による  
地理的變化 政治的勢力に依る地理的變化 前述  
の諸原因に基づく地理的變化  
石油及び瓦斯 石炭 鐵鑛 銅鑛 亜鉛 鉛  
鐵合金屬 加里鑛 ボーキサイト鑛 石墨 金  
鑛

世界列強の鑛産資源と鑛業政策

## 第三章

地理的變化の總括  
鑛物資源より見たる列國の地位

北米合衆國 加奈陀 墨西哥 南米 大英帝國  
歐羅巴本土  
佛蘭西 獨逸 白耳義 西班牙 伊太利 瑞典  
及び諸威 ポーランド チェツコスロバキヤ  
ロシア

## 第四章

鑛業政策より見たる列強の活動

再吟味  
阿弗利加 濠洲 極東方面 列國の鑛産的位置の  
北米合衆國 大英帝國 佛蘭西 獨逸 露西亞  
西班牙 伊太利 ラテンアメリカ諸國  
極東方面  
日本 支那  
結論

## 第五章 政治的手段の特殊性

輸入税 輸出税 獎勵金と輸出禁止 鑛業税 政府の鑛業に於ける協力 聯合カルテル協會シンデゲートの政治的統制 鑛産資源の國營化 國際的手段 門戸閉鎖 讓渡地<sup>コンセッション</sup> 條約 會議 協定

政治的手段の範圍と其の效果

## 第六章 資源保存問題

## 第七章 鑛物と戦争

戦争の遂行と鑛物 戦争の原因としての鑛物 戦争防止を目的としての鑛物

## 第八章 鑛物の將來と鑛業政策

現勢 未來觀 鑛物の政治的統制 資源保存 鑛業税 課税問題 門戸開放 産金問題

鑛物に關する國際間の政治的協定

## 附錄 A 鑛物の考究

B 北米探鑛冶金協會の國內並に對外的鑛業政策に關する委員會報告

はしがき

譯者曰、自分が鑛物の國際性に興味を持ち始めたのは油田地質をやつた關係上、石油面方からであるが、凡そ國家的統制下にある重工業の原鑛程此の色彩が濃厚である。

リース博士の本著は地質學者の立場から鑛物を政治的、經

濟的、地理的、地質的にあらゆる視角から世界的に鳥瞰をしたものである。こうした方面の著書は誠に少く手頃のものがない。

米人として地質學者として果して氏が如何なる權度抱負を持つて自國並に他の列強の鑛産を論ずるか、最も興味を惹かれた點である。故に抄譯を避けて出来るだけ氏の眞意を傳へることにした。逐語的な全譯をした理由も此處にある——譯者の價値はポライトな態度で著者を忠實に紹介すれば足る。濫りに私見を交へて糊と鉄で繋ぎ合はし自著の如くする向きもあるが之は自分の快しとせざるところである。

非常時日本——國際關係の益々多岐多端に紛糾を極めんとしてゐる今日、彌が上にも列強が鑛物を獲得せんとする欲望は停止するところを知らぬ。

現に極東の情勢が其の一端を有力に示してゐる——最近支那の西境に於て頻々と勃發する英支間の衝突は何を語るか？ソビエットの外蒙古並に南支に於ける赤化工作は如何？

鑛物に關する限り國際間の政治的經濟的關係が如何に重大な影響を及ぼすか自ら明らからであらう。本著の存在もまた其處に意義があると思ふ、敢て同好の士の御一讀を御勧めする次第である。

次に本著の内容につき概要を述べんに次の如くなる。

世界に於ける鑛産資源の分布狀態が現代程に論議されるのは史上未だ嘗てないことである。國家的並に國際的關係に於

て該問題を扱へるものである。著者リース博士は歐大陸並に列強の資源の供給關係と將來に於ける鑛產資源の開発を研究し且つ此等要素の政治的重要性を指摘してゐる。氏は漸く大衆的統制に向はんとする世界的傾向及び鑛物の獲得と開發の背景をなす政治的動機について論じてゐる。尙ほ此等の動機が關稅、資源保存其の他の手段に如何に影響を及ぼしつゝあるかをも明快に示してゐる。

また鑛物問題の將來に於ける趨勢を考察し經濟政策、國際政策の豫想を述べ且つ之が世界平和との關係に於て極めて重要な事を強調してゐる。

著者は鑛產資源についての研究では第一人者でありウイスコニン大学地質學部、北米探鑛冶金協會の對外並に對内鑛業政策研究委員會、北米探鑛冶金技術協會の夫々代表座長の地位にある。(一九三四年五月譯者識)

#### 序言 (著者)

今や社會的、政治的性質の新しい鑛物に關する問題が世界的事件の重要な根據として具體化しつゝある。其の主な動因は工業生活の加速度的發展と其の蔓延に基く鑛物の莫大なる消費に外ならない。此の要求に適合するやうに鑛物資源は全然新な觀點に於て今や觀測されねばならない。世界的の見地から鑛物を貯藏せんとする企てを始めて試みたのは實に世界大戰に於ける特殊な壓倒的な鑛物の需要に應ぜんとしたなされたのであり爾來、其の研究は益々擴張され大規模となつた。

今や史上に於て始めて全世界の鑛產資源を或る程度の正確度を以つて評價する時代となり將來に於ける世界の鑛物地理の特徴を豫想し且つ此の情勢に於ける政治的意味を認識するに至つた。

或る種の鑛物は將來に對して全く懸念のない程大量に存在するものがあると共に他の鑛物は産出が極めて限られてゐる、有用な資源は大陸と列強の間に平均して分布されてゐない、總ての鑛物を豊富に産する國はない。或る國家は鑛物には極度に恵まれてゐないものもある。大抵の重要鑛產地に於て生産の頂上は既に過ぎてゐる。

近代の要求に適合する鑛產地は實に驚嘆に値する程僅かな地域にしか過ぎない。從來、重要視されてゐた殘りの數千の鑛產地は殆ど現在では無視し得る程度のものにされてしまつてゐる。之は現在の要求に對して此等が割合に小さい集團としての貢獻しかなさくないからである。

北大西洋を圍む諸國、殊に北米と歐羅巴は工業力に缺くべからざる鑛物の量と組合せに於ける幸運な所有者である。世界の他の部分は、一般にはよく其の反對が信ぜられてはゐるが其れにも拘らず實際は餘り幸運でない。其の鑛業は要するに北大西洋諸國に准ずるもの又は其の分派としての地位を續けねばならない。世界の鑛物を開發する推進力は北大西洋から發散して居り將來も依然として變りはない。此の壓力に對して他の區域は主として防衛的位置にある。

北大西洋諸國の大商業單位、其の或る物は國際的規模のものであるが鑛業の膨大な斷面の統制支配に任じ類似的に従事してゐる他の單位と軋轢をしてゐる。種々の鑛物は商業的に專賣制となつてゐる。其他のものも此の段階に達せんとする途上にある。

産業革命以後の世界の歴史は實に工業力が近代の組織の下に於ける政治的及び軍事的優位の根幹をなしてゐることを有力に實證してきた。

現在では北大西洋諸國に於ける工業の成長は、其の住民が企業に優秀性を有するが爲ではなく、實は必須原料鑛物に富む異常に恵まれた環境への順應の賜であると共に、他方根本的に原料物質の缺陷あるために斯の如き發展を他に求むるに由なきがためである。

北大西洋地域が今後も依然として其の政治的、軍事的、霸權を有することは將來に向つて示されることと思ふ。

列強は此處に始めて、將來の工業上に於ける福祉と安全に就いて鑛物原料が死活的鍵を握ることを痛感すると共に新資源の獲得や既得の資源を局外者の蠶食から保護せんとするなど活潑な政治的行動をとり出したのである。

此の問題は既に國際的にまで擴大してきてゐるが之は政治的意圖の爲ではなくて、商業的環境の止むを得ざる壓迫に依るものである。

鑛物は所謂天然資源と稱するものゝ一部に過ぎないが誘導

的に更に廣義な問題に近づく確固たる根拠を提供してゐる。吾々は周圍の物理的環境を利用することを學びつゝある。鑛産資源の問題は將來を洞察する吾々の能力や新しい環境に賢明に適合して行く力に對して挑戦をやつてゐる。然るに従來は吾々の習慣として環境に壓倒されて居り頗る受身になつて居り多少なりと寧ろ之に服従するといつた態度或は實際の價值を利用せず空しく失敗の徑路を辿つてゐることがある。

以下の頁に於ては成るべく簡單に新しい景觀の新要素の全貌を紹介する實際的操作に於ける傾向と政策をたどり且つ將來に於て國家的並に國際的に主要な政治問題となるべきものについて指摘する考へである。

靜の見地よりも動的見地の方を重要視した。主眼とする點は客觀的に情勢の紹介を主とし斯くあるべし斯くあるべからず等の個人的私見は發表しないことにした。若しも傾向の解釋上に於て個人的意見が覺えず入る場合は、著者は主題への科學的政究に於て許される限度のものであらうことを希望するものである。(一九三〇年十二月ウイリスコンシン大學ニテC・K・リース識)

## 第一章 鑛物景觀に於ける新要素

### 生産の新規模

人類の歴史に於いて鐵、銅、鑛石は武器として金、銀は貴金屬、寶石として裝飾及び美術工藝用にするために此等の鑛物の探索が行はれ始めたのは可成り遠い昔からのことで幾多の探検と戰爭にまつはる興味ある事件を伴つてゐる。

然し當時に於ける鑛物の使用は未だ小規模であり、近世の佛蘭西革命の頃になつても人類の活動を支配する環境の條件のうちでも二次的の重要さしかないものであつた。

次いで今を去る約一世紀前、即ち大英帝國に産業革命が到來するに及んで漸く人類の物質文明の根柢を左右する土石類の探検が開始されたのである。この短日月の間に鑛物は加速度に工業主義の根幹とまで昇格し土壤、氣象等と共に人類活動を支配する主要な原因の一になるに至つた。この大變革の包含する範圍を明確に認識してゐるものは滅多にないが事實の二つ三つを挙げよう。

即ち過去百年間に於て鑄鐵、銅、燃料用鑛物

の産額は百倍に増加した。廿世紀の初葉より現代まで幾多の鑛物資源が探掘、消費されてゐることは、之をそれ以前の歴史に照して格段の相違である。

最近廿年間に於て北米は多量の鑛物を探掘消費したことは過去の史上にその比を見ない。

最近四十年間に於いて北米の鑛物消費量は金額で十五倍に増加した。又世界に於ける重要鑛物の數種類は産額が十年毎に倍加してゐる。

世界に於ける金鑛の産出は最近の廿年間に於いて、北米發見後の四百年間に於ける産額と等しい巨量を得てゐる。スーペリオル湖岸にある鐵鑛山は、その一つの山から二週間毎に搬出する鑛量が實に埃及の大ピラミッドの容積に等しい。數十年に亙り多大の勞力を俟つて建設したもので人類の傑作といはれてゐる。

一九二九年度に北米は前世紀の初葉に於ける五十年間に世界の諸外國が產出したよりも多量の亞鉛鑛をこの一年で產出した。

又同じ一九二九年に於ける全世界の銅鑛の産額は、過去に溯る十九世紀までの歴史的記録のものゝ二倍以上になつてゐて北米だけの年産額は一八八八年までの總産額を遙に超えてゐる。石炭、石油、瓦斯、水力を應用して動力を起し仕事の能率を倍加させることになつた。

エネルギーは一大新規模の下に譲渡されるので完全なる評價はできない。例へば北米の石油總産額は、今では一年毎に丁度南北戦争から十九世紀末への四十年間の總産額に等しい巨量を産出する。全世界も北米も最近に於ける八年間位に多量の石油が消費されたのは過去の歴史にも其の例がない。

北米に於ける最近八年間の天然瓦斯の消費量は三倍に増加したが近い將來には更に増加の見込みがある。然し此處に擧げた數字は未だ全體の真相を傳へていないといふのは燃料を使用するための大なる能率を考へに容れてないからである。

實際は一九一三年から一九二八年までの十五年間に北米全土の燃料鑛物と水力を利用したエネルギーの總量は38%の増加をなし工業生産は約70%増大した。鑛物は今や全米の鐵道貨物積載總噸量の $\frac{2}{3}$ を占め他方は海洋輸送貨物の $\frac{1}{4}$ を占むる迄になつてゐる。工業主義と技術の進歩につれて商品としての鑛物の品目は近年は急速に擴張して今では七十七種以上になつてゐる。或る鑛物は、これまで無價値なものとなつてゐるが此處數年の經過によれば何等かの用途が講ぜられてゐる。

アルミニウム工業は未だ五十年の歴史しか經て居らぬが其れにも増して二次的の重要さの鑛物が廣く應用されてきたのは最近のことである。

現在に於ける生産の加速度がこの速度で續いて行くのは望ましいことでない。或る物質は實用に供せられるだけで破壊されず尙ほ屑としても利用の道が開かれた結果、著しく一次的鑛石

の需要を減退させた。

技術的操作の進歩は粗質原料からも更に大量の回收を得んとしてゐるが、例へば石油よりの揮發油採取法などは正に斯かる傾向をとつて進んでゐる。

斬新な製産法の發見と共に粗質原料の需要が減退してきた事は、最近に用途の廣いスチール合金は次第にその所求のスチールの少量にても目的を達し従つて鐵鑛石も需要が減退の傾向がある。此等の阻害的影響がないとすれば、粗質原料の需要は漸く實現の到底不可能な假空的數字に達するのであつた。世界は今や土石類利用について一大試煉期に入つたのである。

人類的环境にあるこの新要素の影響を評價するに際して我々を指導すべき何等の史的先例がないし、この變革が極めて最近に始まることで且つ最早や極めて慢性になつてゐるので、その重要な意義を了解し難いのである。而かも未だ僅かの自明な傾向すらも確信されてゐないので

ある。

最大の鑛物資源に對する需要の集中

鑛物を欲求して行くことが擴大する結果、この要求に適合し得る少數の鑛物資源に就いて精密な採鑛作業が必要になる。需要が未だ小規模の間は諸處に散在する多數の資源地から必要なだけの供給を確實に與へることもできるのであつた。

然し鑛業の進歩すると共に粗質原料と市場に就いて最も便宜よき位置にある幾つかの單位は他の單位を乗り超して行き其等の單位の分岐の交易路を廣くし且つ深くするのが自然の傾向となつてくる。

主要鑛業の各部門に於ては、現在では供給、製造の支配的中心が幾らかは必ず嚴として存在してゐる。

而して、これ以外の地域は——資源の廣袤と等級、市場への輸送費、其の他の特定事項のためにハンヂキャップを受ける。然しこれは供給の



資源地が數に於いて減つて行きつゝあることを意味するものではない。

或る礦物は確に増加の傾向にあるが、然し産額に於ては霸者的の資源地を占めて居らない。例へば鐵鑛の産地は全地球上に廣く散布し全大陸及び萬國に普遍的に賦存してゐる。而かも主なる支給は僅かに數ヶ所の資源からである。

——北米ではスーペリオール湖近傍及びアラバマ州、佛蘭西では東北部地方及びルクセンブルグであり、大英帝國ではクリープランド、リンコンシヤイアー、ノーサンプトンシヤイアー、カムバーランド地方、瑞典ではキルナ地方、西班牙ではビルバオ地方等からである。

實に以上の資源地は、全世界の年産需要鐵鑛の約 $\frac{3}{4}$ を配給して居り殘餘は其他の諸國に散點する資源からのものである。此等の鐵鑛石を利用する、鋼鐵事業は大なる諸單位の下に集中する。——即ち大なる鐵鑛資源とコーキング・

コールの配給の便よきこと及び過剰人口を有す

ること等の好條件に恵まれる必要がある。

全世界のスチール製造能力の90%以上が次の三區域内に限られてゐる。即ち北米では大湖水沿岸の下流地方、英本土では地方的鐵鑛と石炭を使用する東北部地方であり、佛蘭西では東北部ルール地方である。

此等の大單位は何れも補助的な供給を他の資源地から仰いでゐる。漸次に擴大して更らに確固な地歩を占むると共に必要な粗質原料を自由に獲得することができなくなる。著名な地域を除いて同じ能率を以つて此等の大單位と拮抗することは將來とても不可能であらう。

斯かる必須の條件を悉く具備する地點が發見されたとしても、既設の單位の大きさと能率は之に關聯する工業の分派を舉げて尚ほ新興の單位と競走し或は之と兩立することは困難である。

轉じて石炭に就いて云へば瀝青炭（コークス及び効率ある動力用）は北米、大英帝國、西部

獨逸に於いて開發事業が行はれてゐるが、この三區域で全世界の總産額の大約  $\frac{2}{3}$  を生産してゐる。

殘餘の  $\frac{1}{3}$  は多くの資源地からくるのであるが、何れも名あるものとは比較にならない。北米は全世界埋藏量の約  $\frac{1}{2}$  を占めてゐる。南半球に於ける全體の國を併せても既に評價されてゐる資源の  $\frac{1}{10}$  以下である。

支那には商業上採算ある適當な程度の大資源地はあるが、支那人の側に工業上の發展と優越權を缺くために實用にはならない。

世界に於ける無煙炭の生産は益々集中し事實上、北米ではペンシルバニア州の東部地方に區域が限られてゐる。世界總産額の95%は、この地域からのもので殘餘はウェールズのものである。

將來に於ける唯一の保留地は未探礦に屬する支那に於ける資源である。

最近の五年間に北米は全世界の石油の69%を

供給し、露西亞、墨西哥、ペルシア、蘭領東印度及びコロンビアの順位で24%、殘餘の7%は其他の散在せる各國からのもので各1%足らずである。北米に産する油の50%の中で2%が出油井からのものである。全世界に於ける製油能力の大約85%は北米に集中してゐる。未來に於いて大石油資源地の地理的位置は、他の礦物貨物の場合の如く凡その明察はつきにくいが地理上に於ける事業上の變移は期待されてゐる。

この移動を可成り廣い規模のものとするれば、過去と同様に石油工業は將來とても極めて狭い區域に盛大になるやうに思はれる。

北米は世界の銅産額の55%を産出してゐるが其の90%がユタ、アリゾナ、モンタナ、ミシガン、アラスカ諸州の小數の銅山からのものである。殘餘の世界産額の18%は智利及びペルーのものである。將來に於いて附加される大資源地は、凡そロデシア、コンゴ、オンタリオなどとなるらしい。世界の主要産額を左右する鑛業

會社は主要鑛山に比して極めて少數である。

鐵及鋼の製造に必要な鐵合金として知られてゐる鑛物は、極めて僅かな主要資源地からくる。

滿俺鑛は主として印度、南露シヨルデア、亞弗利加の黃金海岸と、ブラジルの或る地方からのものであり、クローム鐵鑛は、ロデシア、印度、ニューカレドニアからである。

ニッケルは加奈太からタングステンは50%が支那産であり、ヴァナジウム鑛は世界總産額の半はペルーからくる。

錫はマレー海峽殖民地、ポリビア、蘭領東印度が世界の85%を産出してゐる。金は南阿聯邦の主にトランスバール地方だけで世界の $\frac{1}{2}$ 以上を占め、また全世界の $\frac{2}{3}$ を大英帝國が占めてゐる。トランスバールのみで産出する金塊は價格にして五億弗以上に達してゐる。

銀に就ては墨西哥と北米で世界の $\frac{2}{3}$ を占め、主として六地方から出てゐる。鉛に於ては北米は斷然リードして、全世界の40%を出し、

墨西哥、濠洲及西班牙は約30%である。

亞鉛では一九二八年に於ける北米産額は40%で、其の中の70%は三地域からのものである。

加里鑛は獨逸スタツスフルト地方の加里鑛床を首位として、第二位にはアルサス地方が世界市場の牛耳をとつてゐる。平時に於いて肥料の原料となる天然硝酸鹽鑛物は専ら單獨に智利からくる。

硫黃鑛の世界市場は北米テキサス州の産額にて獨專されてゐて、シシリーが次位にある。

以上述べた例に依れば主要鑛物産出の霸權を握る中心地は極めて少いことが充分に理解できる。鑛業地の大約30が丁度世界に於ける鑛産額の $\frac{3}{4}$ 以上を産出してゐる。世界の鑛産を如何なる角度から見ても嚴然として、其處には未來にかけて依然として固定してゐる結節點があり、遠く國境を超えて延びてゐる分歧があり其等が互に錯綜して混亂を極めて居るのである。

國際間の相互依存

鑛物の產出が一地方に局限される結果、世界各國は鑛物の供給問題に就ては相互に相倚り扶けねばならぬ事になる。最も鑛物に恵まれた國家にして尙ほ國境外に、必須の鑛物を求めねばならぬ狀勢に置かれてゐて、而かも大多數は殆ど總ての鑛産に缺乏してゐる。

この狀況を他面から觀測するならば各國家の間には、鑛物に對する需要供給に就て分化統制の氣運が進められてゐるが、例へば北米は石油銅の產額に於いて首位を占め大工業結成が成立してゐる。經驗、統制、資金及技術的手腕が動員され、それが世界各地の銅及石油產地に向けられて北米は其の結果此等の組織に對する配給者となつた。

錫の鑛業に就ては英國が幅をさかしてゐるし加里工業では獨逸が同じ立場に置かれてゐる。

他國が之と競走するのは益々至難となるが、その理由は原料と事業との善き提携が効果的に行はれぬからである。

この情勢は新規模のために部分的に新しいが將來の秩序ある發展と世界平和を齎す、未曾有の新しい政治問題を喚起してゐる。

### 國際間に於ける鑛物の流通

鑛物の產出が一地域に集中する結果として主なる鑛物の交易の通路の數は必然的に限られてくるし且つ幾つかの國境に跨がるやうになる。従つて原產地よりも寧ろ外國に於いて鑛産額の大部分が消費されるやうになる。事實上、全世界鑛産の略1/3に等しい噸數が國際間の境界を超えて流動してゐる。(石炭・石油・鐵が此の1/3を形成してゐる)鑛物が全世界に流通する必要は自ら平時には海路交易が有利であるが戰時には海上交易は著しく拘束されることになる。

この問題は鑛物の交易路が主として北大西洋に集合することに想到すれば自ら了解ができる。國際間の主要な交通路の一つでも遮斷される際には他產地から鑛物の供給を受けることは

難しい時として不可能となるので、勢ひ混亂や慘害を蒙ることになる。これは世界戦争の際に著しく感銘したことである。

此の簡單な事實に無理解なるがために政治行動に依つて此等の交通路を閉塞したり變更したりする種々の企てが行はれるのである。

### 礦物の通商的並に政治的統制の強化

礦物資源にして世界的に屈指のものは、何れも通商上の拘束を多小ともに受けて居り、今や加速度的に益々強化せんとしてゐる。或る種の礦物は一會社若しくは數會社の群團に依つて世界の專賣にならんとしてゐる。

例へば、ニッケル・ヴァナジウム・アルミニウム・加里・石綿・水銀・ダイヤモンド・蒼鉛・硫黄・天然硝酸鹽の如きものである。

其の他に就ては統制が更らに分化してゐるが世界の協力を俟つ資格あるものは尙ほ未だに尠い。

この範疇に入るべきものは、銅・鐵・鉛・石油・

錫・滿僱である。銅は二會社で全世界の34%を支配するし、石油は五大石油會社が世世界の35%を占めてゐる。國際カルテルは歐洲に於ける工業國に無數にある。カルテルの如き國際的合同は粗質原料スチール・亜鉛・銅・鐵（銑鐵）・滿僱・金剛石・苦土・硝酸鹽肥料、其他の貨物に對して形成された。

尙ほ其の他の礦物は供給が極めて廣く散布され且つ豊富なため従つて所有權もまた廣い分布を示してゐる。

例へば石炭・亜鉛・粘土・建築石材の如きものである。

世界的專賣統制に向はんとする動向が或る種の礦物に對しては急速に進行してゐるに反し、他は極めて遅々としてゐるが、之は其の礦業に固有の物理的狀態、即ちその礦物の主要埋藏地の廣袤及び地理的分布の影響等に依るものである。然しまた明白に認められる事は、或る種の礦業は獨り優位を占めて強大な勢力を與へてゐる。

ることでは未だ他の鑛物には見られぬものである。

この動向が佳境に入つてゐるか又は漸く芽差した程度かは別として總ての鑛物が皆例外なく既に同一方向にあることは一致してゐる。

箇様にして鑛物の通商統制は先づ北米合衆國の通商編制に於いて提起され次いで英國に於ても行はれた。

世界の鑛物理藏地及び鑛産額の  $\frac{3}{4}$  は此等の資源地からの支配統制を受けてゐて、今や此等の兩者の間には更らに競争が行はれてゐる。

其の他の諸國の通商上の單位は全く絶望的にまで凌駕されてゐるが尙ほも努力を續けてゐる。

商業上の統制は種々異なる形態をとり、或は鑛物資源地の所有權より成る場合もあり、また間接的には熔鑛爐・精鍊所・鐵管線・輸送線の所有權又は販賣代理店、カルテル等の一種又は異種の結合體より成る。

支配統制の一般的型式は所謂、縦斷的トラストといふもので例へば殆んど總ての鐵鑛は鐵及鋼鐵製造業者の手中にあり、ボーキサイト鑛はアルミニウム製造業者に依り扱はれてゐる。銅鑛業會社は眞鍮會社を所有して製造工業方面の排ケ口を追加してゐる。鑛業の結成は殆んど總ての鑛業の範圍内にあり、之に踵ぐ程度ではあるが、數種の鑛物の上にも單位作業の擴張を行はんとする著しい傾向が見えてゐる。これは特に生産品を製造工業に讓渡する鑛業に於いて適切で鐵鋼事業の如きは單に鐵鑛のみならず、石炭・石灰石・亞鉛・鐵合金鑛の大量を支配してゐる。

尙ほ其の他の場合でも大なる鑛體であれば、一所有地でも優に數種類の鑛物を供給する。これは複雑な鑛體の製鍊上の統制に就ても同様な結果になる。粗質原料、需要、該切な經營、潤澤な資金が巧に結合されれば、素晴らしい鑛業の發展が行はれ、絶えず擴張して行く商業勢力

の中心となり更らに遠隔にある新しい供給地に接近して屢々國境を跨つて進展を示すやうになる。

遂に其の勢力圏は、他の發育する單位を打倒して強化、競争、協同が相隨いで來り之を併吞してしまふのである。統制主義は一般に生産、製造、及び分布に於いて保善的勢力を與へる。大單位の成長は、散點せる小なる競争者をして、多少なりとも守勢的單位として合同を余儀なく行はしむるが如き不利な位置に押し込むことになる。

既に商業統制の強化は世界の鑛業資源を固く拘束してゐるだけに、新しい買手に依り資源を獲得するといふ望みは極めて制限されてゐる。且つ一方には大抵の鑛物が近年に於ては生産過剩に陥つてゐるが、商業的統一主義の一つの目的は、この過剩額を賢明に仕末せんとするためである。

單位統制の國際的擴張は、自國內工業を助成

するために設置された種々な政治的法規のために障害を受け且つ目的を外されてきてゐる。

關稅及び賦課稅は外的商業統制に對抗する守勢的法規として公然と使用されてゐる。

斯くして成された障壁が極端に高度になつた場合、外部より働いてゐる支配的單位は、自衛上分離せる會社、及び地方的探鑛・製煉・製造工業を屢々設立せねばならぬ破目になり、其の政治的障壁の爲に必要以上に廣汎に行はねばならない。然し、それにも拘らず鑛業の共同所有權に向はんとする傾向と事業の集中といふ一傾向がある。

鑛物が數に於いて尠く大さに於て膨大な商業的單位の下に統一されると同様に、また政治的支配の下にも集中されてしまふ。全地球上の鑛物の大部分は大英帝國及び北米合衆國の政治的勢力圈内にある。極めて分布の廣い鑛物の商業的單位の場合でも一般に政治的後援の背景を有するものである。例へば世界の金鑛は商業的に

は其の70%は英國の利權に握られてゐるし、また世界の銅鑛は北米の利權に依り壓倒的に所有されてゐる。

更らに直接的であり且つ集中的支配の例としては、硝石は智利、加里は獨逸及び佛蘭西、錫は大英帝國、ニッケルは加奈太、水銀は西班牙及び伊太利といふやうに獨專的に限られてゐる。

終局に於いて世界の鑛物を所有する者は何人であるかとの問題は、驚愕してゐる全世界の前には今は判然としていない。

この問題が遅々として暫くは形狀を鮮明にしてこない限り、該問題を一般大衆に眞の國家的及び國際的關心事の一として意識させるには——唯新しい需要に應じ得る資源地の分布が制限されてゐること、而かも此等資源の專政的支配が急速に達せられんとしてゐること等の新しい洞察を以つてせねばならない。

如何なる政治的單位又は合同政策が世界的商業編制を支配するであらうか？ 商業上の協力

に於いて更に一步を踏み出すことを躊躇せしめるものは、實にこの問題だけであるが、之に就ては後章に於いて討議する。

或る程度までの商業的並びに政治的協同は、他の原料、例へばゴム・珈琲・穀類等に就ても行はれんとする途上にあるが根本的の相違がある。

鑛物は代用物を以つて換えられぬ資源であり、之を或る種の穀類が成長する場合に必須な還境條件と比較すると、多少量も不足であり且つ不規則に地球上の一地方に局限されてゐる傾きがある。(未完)

## 新著紹介

### ○日本經濟地理

コンスタンチン・ポプボ著

松崎敏太郎譯 叢文閣發行 定價二圓五十錢

菊版四百六十五頁譯文流暢である、外人の日本研究ことに經濟方面に於ける批判は最近大に進んでロシア、又はドイツ